

[課題演習抄録]

21 世紀型市民に必要な資質・能力を育成する中学校社会科実践研究

—「LTD 話し合い学習法」を取り入れた授業づくり—

福田明日香

Asuka FUKUDA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：21 世紀型市民，LTD 話し合い学習法，質的研究

1 研究の目的

本研究は，LTD 話し合い学習法に着目して，21 世紀型市民に必要な資質・能力の育成を目指す中学校社会科の授業づくりを目的とする。

2 研究の計画

M1	①21 世紀型市民として必要な資質・能力の検討②社会科教育の方法論としての LTD 話し合い学習法の検討③①を育成する中学校社会科実践授業の先行研究の検討及び授業実践と授業分析
M2	①M1 での授業実践における課題・成果を踏まえた実践の改善②授業実践と授業分析による成果と課題の洗い出し

3 研究の内容

(1) 先行研究

21 世紀は，知識基盤社会と言われ，自国のみならず地球全体が持続可能な開発を達成することが求められており，21 世紀型市民の育成が必要とされている。中央教育審議会（2005）は，21 世紀型市民とは，幅広い教養を身に付け，高い公共性・倫理性を保持しつつ，時代の変化に合わせて積極的に社会を支え，あるいは社会を改善していく資質を有する人材と定義している。また，多田（2013）は，21 型市民としての資質・能力，技能として「多様性」「関係性」「当事者意識，主体的行動力」「可変性・自己変革力」「共創型対話力」を挙げている。さらに，文部科学省（2017）は，持続可能な社会の実現に向けて主体的に解決しようとする態度の

育成を改訂の基本的な考え方のひとつに挙げており，中学校社会科の学習においても 21 世紀型市民の育成は重要な位置を占めると言える。

しかし，赤沢（2017）は，学力調査で社会科を軽視するような動きや「総合的な学習の時間」との住み分け等の理由から，社会科が教科としての存立の危機を迎えているために，社会科の基礎的な知識・技能を身につけるだけの授業が多く行われている現状を危惧している。また，多田（2013）は，21 世紀型市民としての資質・能力を育むためには，学習方法の基本的改善が必須であり，協同学習の必要性を主張している。

そこで，21 世紀型市民に必要な資質・能力を育成する一方法として，LTD 話し合い学習法を中学校社会科の授業に取り入れることが有効なのではないかと考えた。安永（2006）は，LTD 話し合い学習法とは，予習とミーティングで構成された協同学習の一技法であると述べている。予習とミーティングは，それぞれ 8 つのステップで構成されており，予習では，課題の把握を中心とする低次の学習と課題の理解を深める高次の学習で構成されている。ミーティングは，予習したことをもとに話し合い，課題の把握とさらなる理解の深化をはかるよう構成されている。

これらの LTD 話し合い学習法の特徴は，中学校学習指導要領解説社会編（2017）指導計画の作成上の配慮事項である「社会的事象の意味や意義などを考察し，概念などに関する知識を獲得」することや「生徒の主体的・対話的で深い学び」を実現することと通じると考えられる。つまり，知識を基盤として社会における様々な課題を主体的，また協働的に課題を解決しようとする力を身につけられる授業改善の一方法として LTD 話し合い学習法が有効であると言える。

(2) 実践授業

単元名	天下泰平の世の中		
本時	4/4	実践日	令和2年12月14日(月)
学習者	A市 F中学校 2年生 35名		
主眼	○上方で華やかな元禄文化が生まれた理由をこれまでの学習と資料を根拠に説明することができる。		

(3) 実践 (授業分析) 考察

a. 主体的に課題を解決する力について

- F65 大阪に重要な…W, なんやと思う？
 W66 産業や交通が発達し、株仲間などもできて、商人、商人とか町人とかがお金持ちになったから。(省略)
 F70 てかさー、元々、上方って呼ばれる起源がさ、美味しい食べ物が集まるけやない？やなかった？小学校の時習ったやん？美味しい食べ物が集まって、なんか、魚が美味いって(発言)でも江戸の食べ物はそうでもないって…言いよったよね？やったよね、Y?(省略)
 W77 京都って応仁の乱でめちゃくちゃになってたよ

班活動における生徒の発言の様子①

生徒 F70 や生徒 W77 の発言には、中学校社会科の既習内容だけでなく、これまで経験し学んだこと全てを生かしながら課題を解決しようとする姿が見られる。これは、授業者が提示した課題を自己の課題と捉え、これまで得た知識を統合したり、適用したりして課題を解決しようとする意識の働きであると考えられる。

b. 協働的に課題を解決する力について

- Y84 資料1から分かること。(省略)
 Y93 でも大阪が一番お金的には多いよ。
 M94 200兆円！
 W95 大坂に200兆円の人がいるんですが。(省略)
 W100 まあとにかく…商人は、商人は生活が豊かになったってことじゃないの？

班活動における生徒の発言の様子②

上記資料①から生徒 F65 や生徒 F70 の発言のようにグループ全員に考えを求める姿や上記資料②から生徒 W100 の発言のように個々の発言をまとめようとする姿が見られる。このように、自身の考えを主張しつつも、グループ全員の考えを取り入れ、考えを再構築し、課題を解決しようとする思考が働いていることが窺える。

c. LTD 話し合い学習法について

- N207 まず、戦乱とか戦いがなくなって、そのせいっていうかそのおかげでもの行き来が増えて、その資料3とかみたいに市場が増えて、で、その中で株仲間、どんどん利益をあげて、特定の人がお金持ちになって、お金持ちってことは華やかな文化なんで、その華やかっていうのはお金持ちの人たちのためっていうか、ための文化なんで、その人たちが開いた。(省略)

W215 産業や交通が発達し、株仲間ができて、商人がお金持ちになり、町人もお金持ちになって、華やかな元禄文化が生まれました。

発表時の生徒の発言の様子

本実践では、LTD 話し合い学習法のステップを細かく設定するのではなく、単元全体を課題の把握を中心とする低次の学習と課題の深化を図る高次の学習に分け、毎時の予習は行わなかった。生徒 N207、生徒 W215 の発言から、本単元の学習や資料を踏まえた発言が見られた。このように、既習内容や資料から考えをまとめたり、話し合ったりする場面を設定することで、ステップを設定しなくても、社会的な見方や考え方をいながら知識を基盤として課題解決に向かう力が育成できると考えられる。

4 成果と課題

- 当事者意識が芽生えにくい歴史的分野において、生徒が身近に感じる課題や既習内容とこれまで経験し学んだことを生かして解決できる課題を設定した。その結果、生徒が課題を自己の課題として捉えようとすることができると分かった。
- LTD 話し合い学習法の要素である既習内容や資料から自分の考えを整理した上で話し合う活動を設定することで、生徒が積極的に課題解決に向かおうとすることが明らかになった。
- 21世紀型市民に必要な資質・能力が中学生の具体的な姿として想定できていなかった。中学校社会科における21世紀型市民とはどのような姿なのか、単元ごとや授業ごとに設定する必要がある。
- LTD 話し合い学習法のステップを全ての学習に援用することはできなかった。LTD 話し合い学習法を単元内容や生徒の実態に合わせて工夫する必要がある。

主な引用・参考文献

- 中央教育審議会 2005 我が国の高等教育の将来像
 文部科学省 2017 中学校学習指導要領解説社会編
 赤沢早人 2017 「社会科教育の変遷-「社会科を教える」から「社会科で教える」へ-」田中耕治編著『戦後日本教育方法論史 下』ミネルヴァ書房、41-60頁
 多田孝志 2013 「対話を活用した協同学習の研究」『目白大学人文科学研究(9)』、203-220頁
 安永悟 2006 「実践・LTD 話し合い学習法」ナカニシヤ出版